

## 4-1

マクロの動きを  
変化させよう

ここまでで、「ボタンをクリックするとフォームが開く」というかんたんなマクロを作りました。CHAPTER 4ではユーザーに「選択させて」、「該当のオブジェクトを開く」という、状況によって変化するマクロを作ってみましょう。

## 4-1-1 「条件」となるコントロールを作ろう

CHAPTER 3 (\*\*ページ) で作ったのはテーブルのデータを入力・編集するための機能でしたが、今度は出力・印刷する機能を作ります。

ユーザーにわかりやすくするため、図1のように「ラベル」と「直線」のコントロールを使って、見た目を整えておきましょう。このコントロールはマクロでは使いませんが、一覧にしたときにわかりやすいように「lb\_見出し1」「lb\_見出し2」「ln\_区切り」という名前にしておきます。

図1 見出しと区切りのコントロール

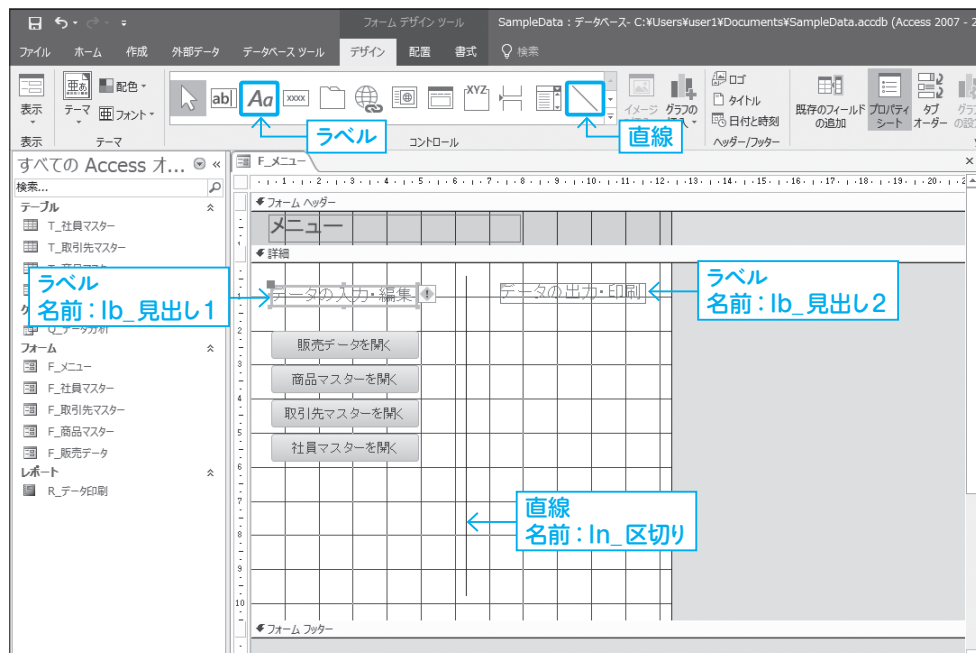
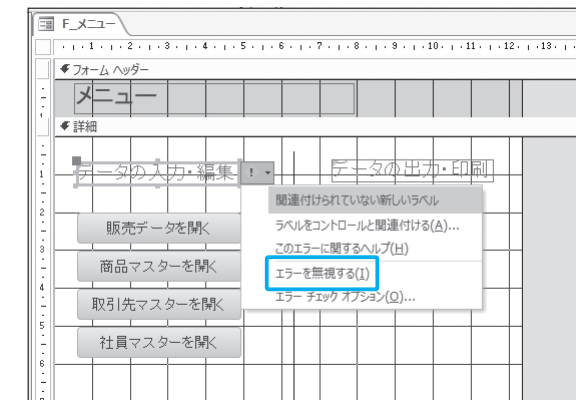


図2 関連付けられていないラベルへのエラー表示



ラベルは、テキストボックスやコンボボックスなど、ほかのコントロールの見出しとして関連付けて使用することが多くなります。そのため、ほかのコントロールに関連付けていないラベルには、図2のようなエラーが表示される場合があります。この場合、意図的に独立したラベルを設置しているので、エラーを無視してかまいません。

さて、CHAPTER 4では、「Q\_データ分析」クエリと、「R\_データ印刷」レポートを開くマクロを作ってみましょう。マクロの概要はCHAPTER 3と同じく、ボタンのクリックイベントに埋め込みマクロを作成し、「クエリを開く」「レポートを開く」アクションを設定すればよいのです。

ここではさらにステップアップして、1つのボタンを使ってクエリかレポート、どちらかを**選択して開く**というマクロを作ってみましょう。

**いずれかを選択する機能**には、「オプショングループ」というコントロールを使います。3-3-3 (\*\*ページ)の「コントロールウィザードの使用」がオン(グレーの状態)になっている状態で、オプショングループを選択して任意の場所でドラッグまたはクリックします(図3)。

図3 オプショングループの配置

